

北海道農業と消費者を「繋ぐ輪」。

つなぐわ

TSUNAGUWA

vol. 6

2024年9月30日 第6号

発行©株式会社 HAL GREEN

特別企画 HAL+産地交流会で「繋ぐ輪」

特集

HAL+会員の いままでとこれからをつなぐ話

表紙:長沼町(株)esaki 圃場



HAL+会員の
いままでとこれからを
つなぐ話

第3回

江崎 佑さん



「つなぐわ」6号



株式会社 HAL GREEN
代表取締役 中島英利

寄稿している本日は8月5日で、ちまたではパリ五輪の話題沸騰、国内もメダルラッシュで大いに盛り上がっています。その中でも沢山のドラマが生まれた「柔道」は、言うまでもなく日本発祥の武道でお家芸でした。しかしながら、いまや世界の柔道競技人口ではブラジル200万人、フランス53万人、日本が12万人という現状です。男女混合団体では決勝でフランスに敗れましたが「これは様々な国に国境を超えて日本の武道が根付いてきた証」とも言えます。逆にフランス発祥のフェンシングで日本が金メダル3つを含む5つのメダルを獲得するなど、環境の変化はスポーツの世界も変えてしまっています。

一方で農作物においても、気象条件の変化や温暖化の影響で取れる作物にも変化がみられます。従来北海道では栽培が難しかった「さつまいも」が道内でも少しずつ広がってきていますし、世界のワインメーカーではフランスの名門中の

名門「ド・モンテューユ」が、「今や北海道は世界の中でも最も優れた産地である」と函館市西部の山裾に2019年に進出しています。従来からの品目はさらに美味しくなり、また新品目まで栽培され、ますます魅力ある大地に変貌していく「北海道」。これも明治の開拓者から脈々とつながる生産者皆様の農業への真摯なお取り組みのお陰と改めて感謝しております。

弊社には7月より、学生時代は柔道の全道レベルの選手で、現在も若手指導を行っている人物が中途入社しました。オリンピック選手の合宿が北海道で行われる際には、受け身を取る相手役として、稽古のサポートもしているそうです。今も逞しい体つきで、明朗活発、当面は農産センターを繰り返せる人物になるよう弊社一丸となって指導していきます。今回のオリンピック柔道のように審判による「指導」ばかりが先行し、面白みが薄れないよう、一緒にやっていきます。そして、今後のHAL GREENを背負うどころか、更なる改革への背負い投げ？できるメンバーになるのではと期待しています。皆様、是非お立ち寄りいただき、彼を含めた一人でも多くの社員に気軽にお声掛けくだされば幸いです。

田舎暮らしの豊かさ
価値を家庭に届けたい

田舎暮らしに憧れて

ブルーベリーやハスカップ等ベリー類の他、プロッコリーやかぼちゃといった野菜類を長沼町にて栽培している(株)esakiの江崎佑さん。

愛知県名古屋市の出身ですが、人混みやコンクリートに囲まれての生活が肌に合わず高校生の頃から「将来は田舎暮らしをしたい」と強く思うようになったそうです。

田舎暮らしは農業・北海道というイメージがあり北海道大学農学部へ進学、学びを深めると共に各地で住み込みでの農業バイトを経験し作業経験は勿論のこといろんな農家のリアルを聞いたことも貴重な体験だったとのこと。

そんな中で札幌を代表する洋菓子メーカーの「きのとや」が自社農場をつくるに当たり責任者を探しているという話を聞き迷わずに挑戦されました。



② 収穫前南瓜圃場
③ 収穫後南瓜（恋するマロン）



④ 収穫前ハスカップ
⑤ 収穫後ハスカップ

当初はきのこのやの洋菓子に使われるベリー類を中心に栽培。しかし植え付けから収穫まで長い年月がかかることもありベリー類のみでは経営の安定化を図ることが難しく野菜類の栽培にも乗り出すこととなります。

まずは長沼町の特産品でもあるブロッコリーの栽培に挑戦。近隣の農家の方々にブロッコリーの栽培技術や防除、施肥等の栽培管理方法を教わり現在では経営の主力品目となっています。ここでの経験から農業というものは地域なくして成り立たないと強く実感し、周辺の様々な考え方を尊重し共生するということが大切さを学んだとのこと。

助けられることもあれば、その逆もあり地域と共に歩みを進めています。

現在ではブロッコリーの他にもスイートコーンやかぼちゃ等の野菜類も経営の主力品目として栽培されています。

また江崎さんは栽培するだけではなく田舎で豊かに暮らすことの価値を生産物と位置づけ、その「価値を家庭に届ける」というスローガンを掲げ実践しています。

かぼちゃを取組む考え方

昨今は重量野菜として栽培面積も年々微減となっている品目がかぼちゃです。

そんな中(株)esakiではかぼちゃも主力品目の一つとなっています。HAL GREENとの取引品目もかぼちゃです。かぼちゃのイメージとしては機械収穫できない・売上が他品目と比較し少ないといったようなイメージを持っている方も少なくないと思います。

江崎さんは、
① 他品目と比較し労働時間少なく総作業時間がかからないためある程度面積がこなせる



① 綺麗につる整理された南瓜圃場

作物を出荷することは勿論のこと、自社ベリーを中心としたジャム加工・販売やブルーベリー狩り等の体験型農業を取り入れ多くの方に田舎の美しい空気や時間を感じられるような取組も積極的に行っています。

田舎暮らしや農業にはお金で買えない豊かさや幸せが手に入ると実感されており、若い世代の方々にこのような生き方も将来の選択肢の一つに考えてほしいと

② 設備投資が少なく済み、栽培経費自体も比較的低い

③ ②のため売上は他品目比較で低いが粗利率は悪くない

このようにかぼちゃの可能性を見だし栽培に取り組まれています。ただしこれは鉄コンでの原料出荷であることが大前提です。以前は江崎さんも自分でサイズ分けから選別、箱詰めまでを実施し出荷されておりました。しかし原料保管や箱詰め作業等まで行うリスクが大きすぎるため、あくまでも原料出荷という形でなければ難しいとのこと。HAL GREENでは農家の方々の思いをしっかりと受け止め今後も保管、出荷、販売を進めて参ります。

のこと。

こうした思いから新規就農の方々とも積極的に交流を深めたり、母校である北海道大学農業サークルの学生さんの受け入れも行っております。ご自分のこれまでの経験や学びを若い世代にも共有し田舎暮らし・農業の素晴らしさというものをリアルに伝える、発信することを大切にされています。

今後の目標・将来の展望

就農当初の目標は「5年以内の黒字経営」でした。数々の失敗や経験を繰り返しながらも地域の方々やご家族の支えもあり見事に目標を達成し現在に至ります。

そんな江崎さんの現在の目標・将来展望は「ハスカップを機械収穫し安定収入に繋げる」ことだそうです。これは10年計画で構想を練っているそうで今の段階では中々現実的ではないとのことですが夢は大きく持ち、少しずつ実現に向けて動き出しています。

ハスカップをはじめ他品目においても今後の江崎さんに大注目です!!

第5回



肥料会社さんに 聞いてみた

VOICE

生産原価が
上がっているなかで
生産者さんが気になる肥料情勢を
聞いてみました。

今回は
私、営業部中田が
株式会社アグリドック
販売本部 本部長
天田英男様に
お聞きしました。

株式会社アグリドック
販売本部 本部長
天田英男様

状況を推察するのは難しいですが、春肥については為替の影響により若干の下げで決着しました。(北海道以外は11月価格改定)複合肥料については概ね据え置きに近い所で決着する見通しです。

長期的には国内の肥料需要の推移、環境問題(MP問題)コーティング肥料の禁止(30年)への対応、農水省が推進するみどりの食糧システム戦略への対応など不透明な部分が多く見通すのは困難な状況です。

質問 2

来年春季に使用する肥料価格の見通しについて

有機原料については、国産原料については弱含みで推移しています。これは主に餌、肥料として需要が減少している事が要因です。輸入有機原料については為替の影響もあり、高値安定という状況です。

無機原料に関してはNPKをほぼ輸入に頼っているためウクライナ、中東の紛争、中国の輸出規制による国際市況の影響、また為替の影響などの複雑な影響があり不透明です。

弊社も安定供給に向けて引き続き努力していきます。

質問 1

昨今の肥料を取り巻く情勢を教えてください。

肥料情勢は不確定要素が多く先行き不透明です。

BS資材(バイオスティミュラント資材) P.A.Dについてご紹介

P.A.D(Plant Activation Drug)とは?

植物の生育に必要な微量元素やアミノ酸などを含んだ葉面散布剤です。

光合成・代謝・成長のサイクルの効率を上げ、健全な作物の成長を助けます。

環境ストレスや病気に負けない体づくりに役立ちます。



AGRIDOCK アグリドック

HAL+ TOPIC

01 G.GAP情報

収穫期を前に各販売先様との2者監査ならびにGLOBAL GAPの外部監査が行われています。HAL GREENでは、生産物の安全性や作業従事者の健康と福祉、また環境への配慮を行った農業経営管理を生産者グループの皆さまと取り組んでおります。近年、施肥量や農薬散布回数といった項目以外の肥培管理についても管理方法の確認としてGAPの取組みを求める販売先様が増えてきています。生産物の安全性もさることながら、夏場の猛暑が続くようになり作業に従事する方々の安全性に対しても新しい取り組みが求められるようになってきています。



商品管理室

HAL+ TOPIC

02 農産物 入荷状況



7月から選果受託の原料の受入れが始まり、8月からも南瓜を皮切りに預かり品についても受入れが始まりました。今シーズンは春先からの少雨と冷涼な天候が続いておりましたが、肥大時期に晴れの日が続いたことで生育が前進し、例年より早めの稼働開始となりました。

昨年は猛暑の影響で、玉葱や南瓜では日焼けによる腐敗が多く見られましたが、今期も同様な傾向が想定されることから注意を払って選果を進めてまいります。

農産センター

産地交流会 03 7.3産地交流会 芽室町

宮村農場様 視察

サツマイモと直播玉葱の圃場および関係機材を視察させていただきました。
サツマイモは既存のポテトハーベスターを自主改造した収穫機を製作され、栽培面積の30aを2日で収穫可能とのことでした。
今年は雨量がかなり少なく、栽培開始から一番苦戦していると伺いました。玉葱は直播栽培200a、移植栽培300aの計500aでオホーツク222を栽培されています。直播は「いかに発芽させるか」を重視して、降雨前をより意識した播種をされています。また、圃場にも特徴があり、玉葱はすべて高畝で栽培されています。湿害対策や根張り強化に効果が見込まれます。



J A めむろ様 視察

馬鈴薯と牛蒡の選果場を視察させていただきました。
馬鈴薯は年間2～2.6万トンの取扱いで、選別、箱詰、パレット積載まで一連の作業は機械化されており、カメラ選別で日量80トンの作業能力とのことでした。選果効率も馬鈴薯の形状によってかなり変わる模様です。選果場運営に係る雇用問題は他地域同様であり、現状は日本人のみの雇用形態ですが、高齢化の影響もあり、年々対応を迫られている様子です。
牛蒡は労働力不足や収益性などの観点から生産件数が減少傾向とのことですが、北海道の牛蒡一大産地を支える設備・規模を備えていると感じました。



産地交流会 04 7.3産地交流会 帯広市

折笠農場様 視察

総面積約95haの広大な土地で特別栽培圃場62ha、有機JAS認証圃場33haを運営されており、特別栽培では馬鈴薯、大豆、緑肥、有機栽培では農薬・肥料を一切使用せず、大豆、黒大豆、黒千石、小豆、小麦、馬鈴薯、マスタードシード、リンゴの多種多様な栽培を手掛けられています。
消費者ニーズを意識し、生産者としての役割と責任を常に考える姿勢がとても印象的でした。また、「美味しい」の本質を探究し、選ばれるための努力を続けること、魅力的な産地を創ること、外的要因に左右されにくい持続可能な農業構築への想いが感じられました。



こばやしフーズ(株)様 視察

野菜のカットおよび冷凍加工の現場視察と昨今の情勢についてお話を伺いました。
特徴は機械化に偏らず、作業員の多さを強みとして、他社が消極的な作業を積極的に進めていく差別化戦略だそうです。雇用人数は100人を超え、約25%は外国人技能実習生(ベトナム、インドネシアなど)です。今の業界は技能実習生なしでは回らないようです。
当日はインカのめざめ、長芋、牛蒡などの加工作業中で、加工ロスは想像以上に多い印象を受けました。冷凍設備などの稼働・維持もかなりのコストが掛かり、冷凍食品やカット野菜の価格が高くなるのは頷けました。



ものづくり補助金について

ものづくり補助金は、既に多くの農業者の方が利用されており、認知が広まっていることかと思えます。そのような中、第17次公募より、新たに「省力化（オーダーメイド）枠」という申請枠が追加されていることについては、ご存知でしょうか。対象の事業は、「人手不足の解消に向けて、デジタル技術等を活用した専用設備（オーダーメイド設備）の導入等により、革新的な生産プロセス・サービス提供方法の効率化・高度化を図る取り組みに必要な設備・システム投資等を支援」となっております。

一見、農業者の皆様には関係のないように見えますが、こちらの申請枠を利用して採択されている農業者の方もいらっしゃいますので、今回はものづくり補助金について、解説させていただきます。

① ものづくり補助金の概要

〔図1参照〕

改めまして、ものづくり補助金とは、国内の雇用の多くを占める中小企業・小規模事業者が生産性向上や持続的な質上げに向けて取り組む、革新的な製品・サービスの開発または生産プロセス等の省力化のための設備投資・システム構築を支援する補助金です。資本金3億円以下、または常時使用する従業員の数が300人以下となる農業法人や個人農業者が対象です。

② ものづくり補助金の採択事例

弊社における、ものづくり補助金の採択事例では、通常類型でコンバイン、トラクター、ドローン、自動操舵機など、設備を導入することにより生産プロセス等の省力化を図るということで採択がされています。また導入の機械は1台のみだけではなく、トラクターと作業機、自動操舵機9台など複数の機械を同時に申請することも可能となっております。

図2 省力化（オーダーメイド）枠の概要

補助上限額・補助率		対象事業
従業員規模	補助上限額	
5人以下	750万円(1,000万円)	人手不足の解消に向けて、デジタル技術等を活用した専用設備（オーダーメイド設備）の導入等により、革新的な生産プロセス・サービス提供方法の効率化・高度化を図る取り組みに必要な設備・システム投資等を支援 デジタル技術等を活用した専用設備（オーダーメイド設備）とは、ICTやIoT、AI、ロボット、センサー等を活用し、単一もしくは複数の生産工程を自動化するために、外部のシステムインテグレータ（Sier）との連携などを通じて、事業者の個々の業務に応じて専用で設計された機械装置やシステム（ロボットシステム等）のことをいいます。デジタル技術等を活用せず、単に機械装置等を導入する事業については、本事業の対象とはなりません。
6~20人	1,500万円(2,000万円)	
21~50人	3,000万円(4,000万円)	
51~99人	5,000万円(6,500万円)	
100人以上	8,000万円(1億円)	

※補助金額 1,500万円までは1/2もしくは2/3、1,500万円を超える部分は1/3

（ ）内は大幅賃上げに係る補助上限額引き上げの特例を適用した場合

活用イメージ【例】

熟練技術者が手作業で行っていた組立工程に、システムインテグレータ（Sier）と共同で開発したAIや画像判別技術を用いた自動組立ロボットを導入し、完全自動化・24時間稼働を実現。組立工程における生産性が向上するとともに、熟練技術者は付加価値の高い業務に従事することが可能となった。

③ 省力化（オーダーメイド）枠について

〔図2参照〕

第17次公募より省力化（オーダーメイド）枠が追加され、補助金の上限額も大幅に引き上げられました。さらに特例を適用することにより上限額は引き上げになります。特例の要件は、①給与支給総額を年平均成長率1.5%以上増加に加え、更に年平均成長率4.5%以上増加、②事業場内最低賃金を地域別最低賃金+50円以上の水準とすることを満たし、さらに毎年、事業場内最低賃金を年額+50円以上増額、③応募時に①と②の達成に向けた具体的かつ詳細な事業計画の提出となっており、①②③を達成することにより補助金上限額は引き上げになります。つまり、「大幅賃上げを実施すると、補助額の限度額上限も増やします」という特例となっております。

④ 省力化（オーダーメイド）枠の対象先

概要に記載の通り、人手不足の解消に向けて、デジタル技術等の活用した専用設備等が対象になるため、農産物の出荷のための生産ラインの構築や牛舎等の自動給水・自動給餌など、専用で設備を設計する農業者が対象に

⑤ 終わりに

第17次公募より、省力化（オーダーメイド）枠が新設されたため、通常類型は「革新的な製品・サービス開発の取組みに必要な設備・システム投資等」が対象となります。そのため、省力化（オーダーメイド）枠での申請と改めて理解していただき、検討や準備を進める必要があります。少し複雑ではありますが、新たな設備投資の機会が増えていることには違いないです。設備投資を検討する際には、必ず補助金についてお調べすることをお勧め致します。わからないことがありましたら、遠慮なく弊社にご相談ください。

第17次公募より、省力化（オーダーメイド）枠が新設されたため、通常類型は「革新的な製品・サービス開発の取組みに必要な設備・システム投資等」が対象となります。

図1 申請枠・類型

枠・類型	概要	補助上限額	補助率
省力化（オーダーメイド）枠	人手不足の解消に向けて、デジタル技術等を活用した専用設備（オーダーメイド設備）の導入等により、革新的な生産プロセス・サービス提供方法の効率化・高度化を図る取り組みに必要な設備・システム投資等を支援	750万円～8,000万円	中小企業 1/2 小規模・再生 2/3 ※補助金額1,500万円までは1/2もしくは2/3、1,500万円を超える部分は1/3
製品・サービス高付加価値化枠	通常類型	750万円～1,250万円	中小企業 1/2 小規模・再生 2/3 新型コロナ回復加速化特例 2/3
	成長分野進出類型	1,000万円～2,500万円	2/3
グローバル枠	海外事業を実施し、国内の生産性を高める取組みに必要な設備・システム投資等を支援	3,000万円	中小企業 1/2 小規模 2/3

大幅賃上げに係る補助上限額引き上げの特例 補助事業終了後、3～5年で大幅な賃上げに取り組む事業者（給与支給総額を年平均成長率（CAGR）6%以上増加等）に対して、補助上限額を100～2,000万円上乗せ



税理士法人 小島会計

代表税理士 小島 拓也

〒074-0003
北海道深川市3条
15番30号





想いを価値に



「安全」で「安心」できる
こだわりの農産物を日本全国にお届けするため
特別栽培農産物、GLOBAL G.A.P.の取組を通し
農業大国北海道より、安全で安心できるこだわりの農産物を
日本全国にお届けいたします。



www.halgreen.co.jp

HAL GREEN
公式LINEアカウント

右記QRコードから登録をお願いします！
毎週金曜日にHAL+生産者さまに
色々な情報を配信しています！

